

看護支援システム 導入施設800超

ないならうちでつくろう



「ナース物語のおかげで病院との接点が増え、医療機関向けソフトの開発が多い」と語る長内社長

マルマンコンピュータ

サービス(弘前)

「看護師向けの勤務表ソフトを紹介してほしい」。約25年前、得意先の県内の病院から寄せられた相談が、のちに看板製品となる看護業務支援システム「ナース物語」誕生のきっかけだった。

長内睦郎社長(68)は当時を振り返る。「市販のソフトを試したが、全然使い物にならなかった。『それならうちでつくろう』という話になった」。看護師の複雑な勤務体系に応用できるソフトは当時なかったという。

1994年、ナース物語を発売。看護計画など看護業務全般を支援するシステムへと次第に発展させた。小病院から千床以上の大病院まで対応でき、2015年現在、導入実績は全国800施設以上。10年の民間調査では、看護業務支援システムとしては全国シェアが2位(占有率20・3%)だった。長内社長は「医師の視点ではなく、現場で働く看護師を中心にシステムをつくり上げたことが評価の要因だろう」とみる。

現在は、ソフト制作の一部業務を八戸工業大学の学生に発注するというユニークな試みも行っている。「学生は報酬を得ながら、知識や納期を守るといった仕事のスキルを学べる。真のインターンシップと言える」と長内社長は強調する。

さらに県内外の企業と共同出資して「青い森クラウドベース」を設立、長内氏が社長に就任した。六ヶ所村のむつ小川原開発地区に、大規模なデータセンターを建設。15年12月に完成し、外気と雪水を冷房に活用した省エネルギー型施設として稼働している。

マルマンコンピュータサービスの設立から今年で35年。大手医療機器メーカーや全国の自治体、大学と連携しながら、医療・健康分野のソフト開発を続けている。長内社長は「全てはナース物語で病院との接点が増えたおかげ。地方にいても全国発信ができる」と力を込める。(三好陽介)

弘前市の建設会社「村上